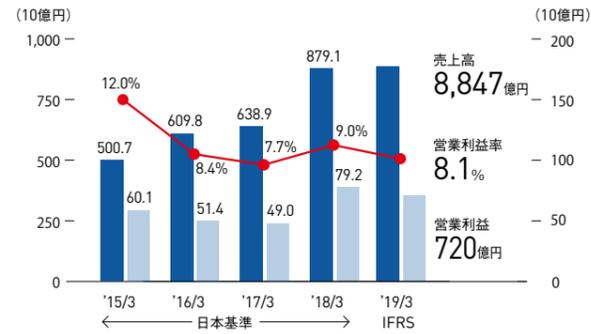


第2章 財務戦略・資本政策

財務・非財務ハイライト

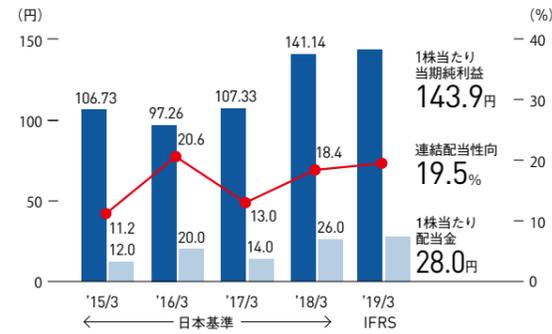
財務ハイライト

■ 売上高、営業利益、営業利益率



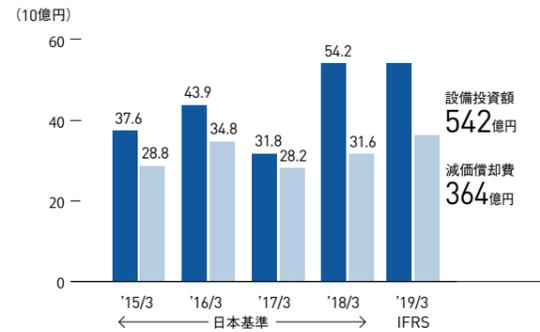
収益力のさらなる向上を実現するために、徹底したコスト削減、高付加価値製品と新技術の開発および拡販活動に注力した結果、売上高／営業利益ともに過去最高を更新しました。

■ EPS および配当額



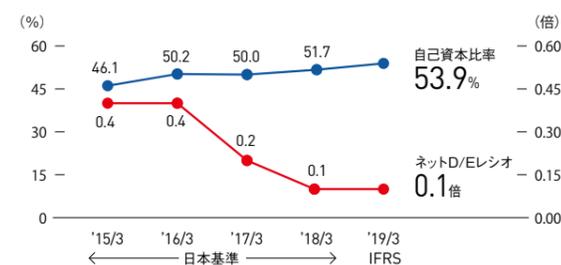
業績をより反映した水準での利益還元を図った結果、2019年3月期の配当は前期比2円増配の28円としました。

■ 設備投資額、減価償却費



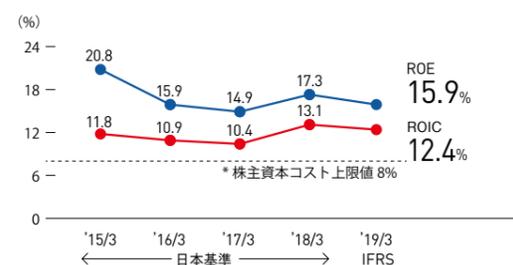
設備投資額は電子機器事業の増強投資を中心に増加し、それに伴い減価償却費も増加しました。

■ 自己資本比率、ネット D/E レシオ



自己資本比率は前期比で改善、ネットD/Eレシオも前期と同水準を維持し、財務体質の改善が進みました。

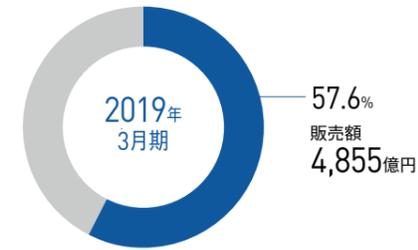
■ ROE、ROIC



ROE、ROICとも、利益成長を中心に、高い水準を維持しています。ROICは株主資本コスト上限値を上回り、資本効率を高めながら企業価値を向上させています。

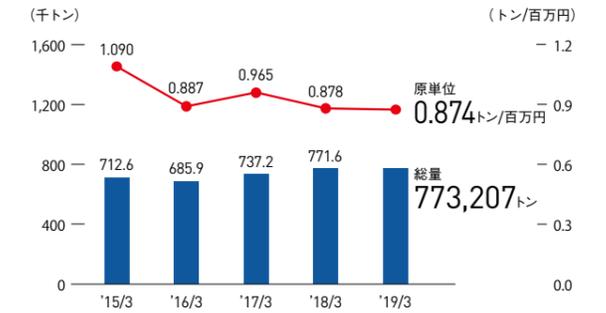
非財務ハイライト

■ グリーンプロダクツ売上高比率



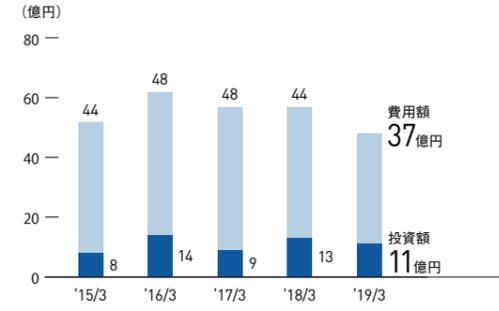
2019年3月期に生産、販売された製品よりグリーンプロダクツ認定制度を導入しました。2019年3月期のグリーンプロダクツの販売額は4,855億円と総売上額の57.6%でした。

■ CO₂ 排出量



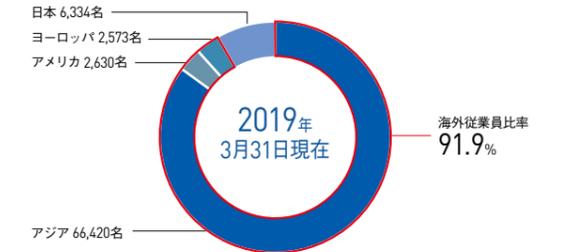
地球温暖化に関わるCO₂排出量を総量、生産高原単位で捉えています。生産高原単位は短期的には為替の影響等を受ける場合がありますが、中長期的には減少傾向にあります。2019年3月期は、生産高原単位で0.874トン/百万円のCO₂排出量でした。

■ 環境保全コスト



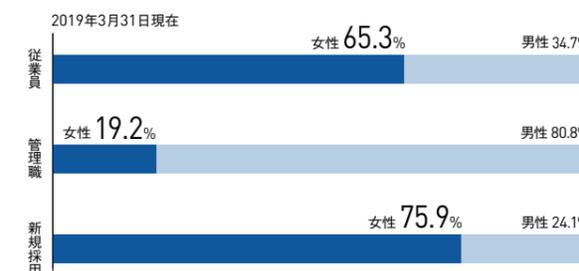
環境省の発行する「環境会計ガイドライン2005年版」を参考に、投資額、費用額の集計を行っています。2019年3月期の投資額、費用額を合わせた環境保全コストは48億円となりました。

■ 地域別従業員数



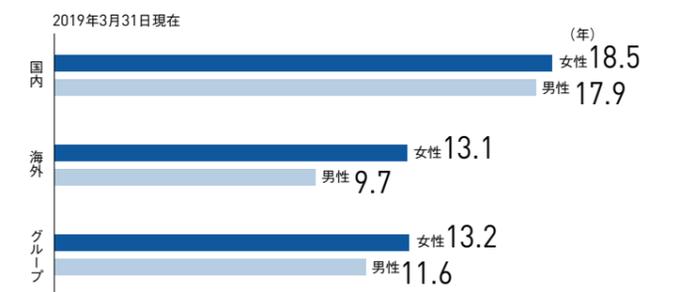
海外売上高・生産高比率がそれぞれ概ね6割、9割を超えているため、海外従業員比率は91.9%と高い数値となっています。

■ 女性比率（従業員、管理職、新規採用）



多様な人材が能力を最大限に発揮できる環境づくりによって、新たな価値観や競争力の創出を目指し、女性活躍を推進しています。2019年3月末の女性従業員比率は65.3%、管理職比率は19.2%となりました。

■ 男女別平均勤続年数



男女間で大きな差はなく、グループ全体では女性の勤続年数が長いことから、引き続き育児休業後に就業継続できる職場環境づくりに取り組んでいきます。